

## 栃木県の移動人口

栃木県人口の20.1%が5年前から住所を移動  
移動人口の割合を男女別にみると、男性が20.7%、女性が19.5%

平成22年国勢調査による栃木県人口を5年前の常住地別にみると、5年前も現住所に住んでいた者は1,537,802人(79.9%)、現住所以外に住んでいた者(以下「移動人口」)が386,304人(20.1%)となっている。

移動人口についてみると、「自市区町村内」が195,265人(10.1%)で最も多く、次いで「他県」が103,223人(5.4%)、「県内他市区町村」が78,477人(4.1%)、「国外」が9,339人(0.5%)となっている。

移動人口の割合を男女別にみると、男性が20.7%、女性が19.5%となっている。

(注)割合については、5年前の常住地が「不詳」の者を除いて算出。

表1 栃木県の5年前の常住地別人口の割合(%)

5年前の常住地	総数	男	女
現住所	79.9	79.3	80.5
現住所以外	20.1	20.7	19.5
自県内	14.2	13.9	14.5
自市区町村内	10.1	9.9	10.4
県内他市区町村	4.1	4.0	4.2
県外	5.9	6.8	5.0
他県	5.4	6.3	4.5
国外	0.5	0.5	0.5

他県からの転入者について都道府県別にみると、「東京都」が男女共に最も高い

5年前の常住地が「他県」の者(103,223人)について、5年前の常住地を都道府県別にみると、「東京都」が15,976人(5年前の常住地が「他県」の者の15.48%)と最も多く、次いで、「埼玉県」が13,418人(同13.00%)、「茨城県」が11,171人(同10.82%)などとなっている。

男女別にみると、男性は、「東京都」が8,950人(同15.03%)と最も高く、次いで、「埼玉県」が7,720人(同12.96%)、「神奈川県」が5,947人(同9.99%)などとなっている。女性は、「東京都」が7,026人(同16.09%)と最も高く、次いで、「埼玉県」が5,698人(同13.05%)、「茨城県」が5,328人(同12.20%)などとなっている。(表2参照)

### 移動人口の割合は30～34歳が男女共に最も高い

本県の年齢5歳階級別人口に占める移動人口の割合をみると、30～34歳が47.19%と最も高く、次いで、25～29歳が46.17%、35～39歳が35.78%などとなっている。

男女別にみても、30～34歳が（男性45.04%、女性49.50%）最も高く、次いで、25歳～29歳（男性44.26%、女性48.24%）、35～39歳（男性35.73%、女性35.84%）などとなっている。（表3参照）

（注）ここでいう年齢は、平成22年調査時の年齢である。

### 男性は、20～24歳では「他県」が最も高い 女性は、全年齢階級で「自県内」が最も高い

本県の年齢5歳階級別人口に占める移動人口の割合を、5年前の常住地、男女別にみると、男性は、20～24歳では「他県」が「自県内」及び「国外」を上回り最も高くなっているが、それ以外の各年齢階級ではすべて「自県内」が最も高くなっている。女性は、全年齢階級において「自県内」が最も高くなっている。（表3参照）

### 市町別移動人口

移動人口の割合は宇都宮市が24.7%と最も高い  
5年前も現住所に住んでいた者の割合は塩谷町が92.1%と最も高い  
県内からの移動は宇都宮市が17.1%と最も高い  
他県からの転入は那須町が8.5%と最も高い  
国外からの転入は真岡市が0.9%と最も高い

市町別人口に占める5年前の常住地別の割合をみると、移動人口は、宇都宮市が24.7%と最も高く、次いで、小山市が23.6%、さくら市が23.5%などとなっている。一方、5年前も現住所に住んでいた者は、塩谷町が92.1%と最も高く、次いで、茂木町が91.1%、那珂川町が90.7%などとなっている。

移動人口についてみると、県内からの移動は、宇都宮市が17.1%と最も高く、次いで、真岡市・小山市が15.2%などとなっている。

他県からの転入は、那須町が8.5%と最も高く、次いで、さくら市・野木町が8.1%などとなっている。また、国外からの転入は、真岡市が0.9%と最も高く、次いで、高根沢町が0.8%、宇都宮市・足利市が0.6%などとなっている。（表4参照）